

## 徳山ダム建設費、牧田・杭瀬川の河川改修費を削って捻出

### 徳山ダム事業費追加分 87億円はどこから 捻出したのか

平成16年度当初、徳山ダム建設の予算は2540億円事業費一杯の93億円が計上されていました。しかし、7月、国土交通大臣が徳山ダム事業費を960億円追加し「3500億円」と認可したため、臨時国会で補正予算を組むことなく87億円が追加されました。

その財源は治水特別会計の直轄河川改修費や砂防事業費を削減して徳山ダム建設に投入していたことが、「徳山ダム建設中止を求める会」事務局長近藤ゆり子氏が国土交通省河川局および中部地方整備局にじっくり聞いた中で、追加分87億円のうち47億円分が明らかになったものです。残りの40億円は情報公開請求中とのこと。



平成16年度治水特別会計を見ると、徳山ダム建設事業費として水資源開発事業交付金が47億1100万円追加されています。そのうち31億4880万円が治水特別会計から移用されています。（表1参照）残りの約16億円は利水者や発電事業者からとのこと。

「移用」つまり流用の中で3分の2を占めるのが一般河川改修18億8900万円で、損斐川や牧田川の直轄河川改修や杭瀬川の河川改修災害復旧等関連緊急事業からの削減分と思われます。

### 河川改修の遅れ 徳山ダム建設が原因

昨年23号台風で明らかのように、大垣地域が集中豪雨に遭うと、損斐川の水位が低い段階から、内水被害に遭い、洗堰から越流して荒崎水害を引き起こすことです。徳山ダムが完成しても、この地域の独自の治水対策が必要であることを示しました。しかし損斐川流域の河川改修は、木曾三川の中でも一番遅れています。徳山ダムに税金を投入し河川改修を怠ってきた結果であることが、今回の徳山ダム建設費移用からも明らかです。

平成16年度治水特別会計削減分内訳（47億円の内訳）表1

水資源開発事業 交付金	1億円	利根川武蔵水路改築
直轄河川改修費	21億8900万円	一般河川改修18億8900万円 （牧田川・杭瀬川の河川改修） 特定構造物改築事業 3億円 （犀川総合排水機場改築）
砂防事業費補助	8億5980万円	岐阜県23か所 4億5650万円

## シンポジウム わが町の今とあした

今までの県政は、徳山ダム建設など大型公共事業に熱中し16年間に借金を4倍に増やしました。一方、福祉・教育などは全国最下位状態です。しかし今、住民は大型合併の押しつけにNOを表明し、住民本位の町作への歩みが進みつつあります。今起きている地域の問題を検討する中で、わが町の明日を考えます。

シンポジスト

- ・西濃の教育を考える・・・30人学級実現の運動をしてきた子どもサポートネット
- ・この地域の治水問題を考える・・・荒崎水害訴訟原告団
- ・自立した町づくりをめざして・・・大型合併にNOを突きつけた垂井町の皆さん

日時：2005年1月16日（日）午後2時より5時まで  
場所：大垣市北地区センター